みやわきちょういっちょうめ

宮脇町一丁目遺跡　現地説明会資料

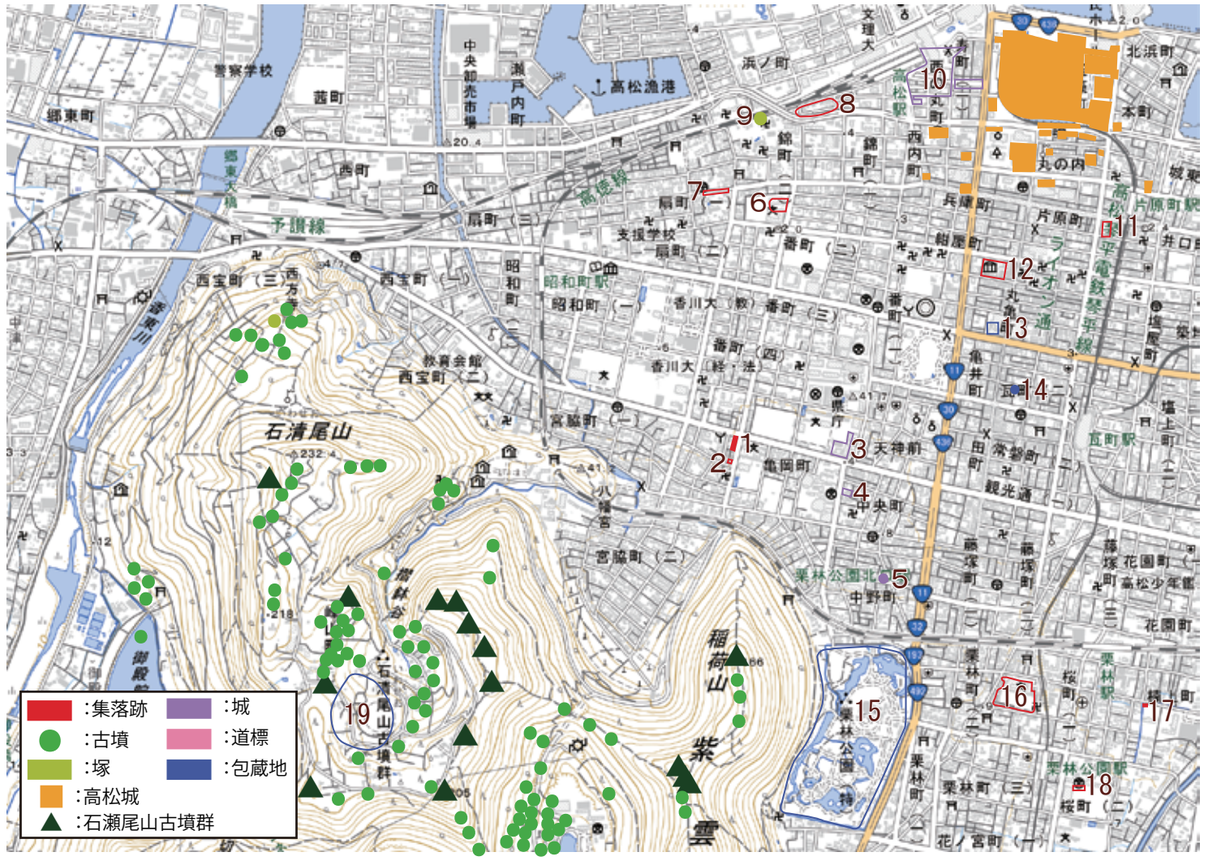
令和７年６月７日（土）
香川県埋蔵文化財センター

【１. はじめに】

香川県埋蔵文化財センターでは都市計画道路事業【錦町国分寺綾南線改修工事】に先立って、宮脇町一丁目遺跡の発掘調査を４月から実施しています。なお、調査地は高松城下町の絵図より五百羅漢を祀る寺として信仰を集めた「祥福寺（しょうふくじ）」の境内にあたることが判明しています。

また、調査地北方の市街地には1587年に讃岐一国を与えられた生駒親正によって築かれた後、高松藩松平家の居城となった高松城をはじめ、製鉄関連の遺物が見つかった紺屋町（こんやまち）遺跡、高松藩士の屋敷地の区割りが明らかになった二番丁小学校遺跡があります。さらに、江戸時代の遺跡だけでなく、鎌倉時代～室町時代の野原と呼ばれていた時代に流通と漁業の拠点であった中世集落が見つかった浜ノ町遺跡も分布しています。

対して、調査地南方の丘陵部には古墳時代前期の安山岩を積み上げて構築された積石塚（つみいしづか）と後期の横穴式石室を有する盛土墳が200基以上分布する石清尾山古墳群が分布しています。また、弥生時代後期末に水利環境の整備のため、溝を複雑に幾重にも掘った栗林田中遺跡も調査地の南東部に所在しています。



1：宮脇町一丁目遺跡　2：宮脇町一丁目南遺跡　3：雑賀城跡　4：藤井城跡　5：中ノ村城跡　6：二番丁小学校遺跡
7：扇町一丁目遺跡　8：浜ノ町遺跡　9：生駒親正夫妻墓所　10：高松城跡（西の丸地区）　11：片原町遺跡　12：紺屋町遺跡
13：亀井戸跡　14：大井戸　15：栗林公園　16：栗林田中遺跡　17：楠上深田遺跡　18：桜町遺跡　19：摺鉢谷遺跡

図１：宮脇町一丁目遺跡とその周辺　（国土地理院地/GSIMapsの一部に加筆して作成）

【３.絵図から考える】

享保年間高松城下図
（享保三年以降1718～36）

高松市街古図
（文化年間：1804～18）

讃岐高松城下絵図
（天保13年～弘化３年：1842～46）

図２：絵図と調査地の位置関係（絵図：高松市歴史資料館蔵）

近世の絵図によると、板葺きの屋敷地（享保）→五百羅漢（文化）→祥福寺（天保）と変遷していることが分かります。

また、祥福寺の縁起によると1679年に二代藩主松平頼常（よりつね）によって創建され、一度衰退し、享保年間に再建されたとあります。その後、祥福寺は高松空襲で焼失し、西春日町に移転していきました。

【４. 土の堆積状況からみた調査地の履歴】

↑土の堆積状況（調査区北壁）

土の堆積を観察すると❼層は砂層・円礫・泥が交互に堆積しているため、河川が流れを変えていたとみられ、❻層は粘り気の強い泥で構成されているため、湿地だった可能性が考えられます

よって、調査地は少なくとも弥生時代は河川であり、次第に流れが鈍くなって、中世では湿地状になるものの、地盤が安定するのは江戸時代に入ってからと推測する事ができます。

【まとめ

・江戸時代後期の遺物がまとまって出土したため、この時期に建物の建替や土地の造成といった、大規模な改 変があったと考えられます。
・瓦が多量に出土したため、瓦葺の建物があったことが明らかになりました。
・江戸時代以前は、河川の範囲内や湿地帯であり、地盤が安定していなかった事が判明しました。
・分厚い高松空襲の戦災層を確認しました。

香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024　香川県坂出市府中町字南谷5001-4

TEL　0877-48-2191
FAX　0877-48-3249
http://www.pref.kagawa.jp/maibun/

【2. 今回の調査成果】

今回の発掘調査で、高松空襲時に比熱したと見られる焼土層を掘削した結果、江戸時代後期（18世紀後半～19世紀初頭）を中心とする時期の遺構（溝・土坑・柱跡）や遺物（陶磁器・土師質土器・瓦・燈明皿）が見つかりました。また、江戸時代の遺構の下で中世の遺物を含む溝を検出しました。

遺物包含層と柱跡から出土した遺物の時期が一致

↑遺物包含層を除去して検出した柱跡

↑柱跡から出土した瓦

↑包含層から出土した土器・陶磁器・瓦

1 軒丸瓦
2 軒丸瓦
3 軒丸瓦
4 軒平瓦
5 土製人形
6 土製人形
7 土師質土器皿
8 軟質施釉陶器
9 大谷焼
　蕎麦徳利
10 燈明皿
　（京・信楽系）
11 燈明皿
　（京・信楽系）
12 陶器急須
　（肥前系）

調査地北部で確認した遺物を多量に含む包含層を掘削すると、その下から柱跡を検出しました。柱跡からは軒丸瓦の破片が出土しており、包含層出土軒丸瓦と巴紋の形状が類似する上に、柱跡を埋め戻した土が包含層の土と酷似することから、建物の解体時、不要となった土器・陶磁器・瓦を窪地に投棄した結果、包含層が形成されたと考えられます。

様々な遺物が投棄された土坑

↑包含層から出土した土器・陶磁器・瓦

↑土坑から出土した土器・陶磁器・瓦

1 軒丸瓦
2 肥前系磁器
3 摺鉢（堺・明石系）
4 摺鉢（備前系）
5 摺鉢（堺・明石系）
6 燈明皿（備前系）
7 仏飯器（肥前系）
8 人形徳利（備前系）
9 足釜

この土坑は同じ特徴の土で埋め戻されており、層を区分することができません。よって、遺物を投棄した直後に埋め戻しをおこなった廃棄土坑と考えられます。

このように出土した遺物は時期差があまりなく、同時期に使用されていたものと判断できることが多いため、年代を考える基準になったり、当時の流通を考える上でも有効な手がかりとなります。

重なり合う痕跡

↑戦災層出土

↑江戸時代の落ち込みから出土

↑中世溝出土

1 古銭
2 一銭（大正11）
3 歯ブラシの柄
4 足釜
5 焙烙
6 焼塩土器蓋
7 土師質土器皿

本日、公開している箇所では高松空襲に伴うと見られる焼土、江戸時代後半の落ち込み、中世の溝が重なって見つかりました。

このように、様々な時期の遺構が重複してみつかると、遺構ごとの新旧関係を把握することが可能になるため、遺物による年代決定を補完したり、遺物の出土がなく年代決定が困難な遺構を評価することも可能になります。